

▶南丹地域の子どもの力作が並ぶ（南丹美術工芸教育展）



賞）の受賞者には、1月31日に表彰授与が行われました。作品展示会場では、授与されたばかりの賞状を手に、榮譽に輝いた作品の前で記念撮影する家族連れの姿がありました。そのほか、出品者には佳作または奨励賞が授与されました。

同じくジョイントプログラムとして1月31日に開催された「次世代へつなぐ南丹地域文化フォーラム」（京都府南丹広域振興局主催）では、地域で伝承されるトチ餅づくり（美山町）や佐伯灯籠人形浄瑠璃（亀岡市）、和知人形浄

瑠璃（京丹波町）を、親子で体験するワークショップなどが行われました。普段見ることのない伝統の技に子どもたちは興味津々。トチ餅づくりでは「トチヘシ」という昔からの道具を使ってトチの実の皮むきを体験し、ほろ苦さのあるトチ餅を試食しました。

子どもたちにとって、地域に伝わる技を知り、その素晴らしさを実感する貴重な機会となったことでしょう。これら伝統の技が財産として地域に受け継がれ、いつまでも存続されることが伝承者の「おもい」であり、課題でもあります。



▲佐伯灯籠人形浄瑠璃体験



▲和知人形浄瑠璃体験



▲トチ餅づくり体験

南丹地域の職人を発見

今回、南丹工芸文化祭の開催にあわせて実行委員会が取り組んだもう一つのプロジェクト、それは「南丹職人発見マップ」の制作。南丹市内で活躍されているさまざまな分野の工芸職人の所在を、市内地図に示し、職人の工芸に対する「おもい」や作風、制作活動の様子などを織り交ぜて紹介する冊子（A6判）です。南丹市の、もろのづくり、文化をさらにPRしながら、魅力のあるまちづくりにつなげていくことを目的に作成しました。

この企画・取材・制作にあたっては、京都伝統工芸大学の工芸サークル「こたくみ」の学生たちが、市内を走り回って工芸家宅を訪問。感じるままに職人たちの「おもい」を受け止めて、マップに記しました。工芸を意欲的に学ぶ学生たちの専門的な知識、観点や意見を取り入れて、より実用的で活用できるものという思いで作られています。

職人データは、職人の氏名、工房名、所在地のほか、工芸分野、職人略歴、工房の特徴を記載。そして工房の見学・体験が可能な場合や、ギャラリー・カフェなどが